

「命の大切さ」

福住中学校 2年 奥中 隆生

僕の家族は、6人と1匹の犬がいます。僕は、その犬が大好きで、名前はレオといいます。僕が小学1年生の時に家にやってきました。犬種は、ミニチュア・ダックスフンドです。とっても可愛くて自慢のペットです。名前は、僕のお姉ちゃんが考えました。活発で元気な性格のオスです。おもちゃがとっても好きで、誕生日には、おやつと音の鳴るおもちゃを買いました。音の鳴るおもちゃをあげると、2日くらいで壊してしまっただけで、壊れても遊んでくれるので、優しい犬だなと思います。なので、レオのおかげもあって僕は、動物が大好きなのです。

ですが最近、動物に関する嫌なニュースをよく見るのです。動物が嫌な目にあっているのを見るたびに僕は、命の大切さについて考えます。1人の人と1匹の動物の命の重さは、どちらも同じだと僕は思います。犬は、言葉を話せないのです。それにも関わらず、ペットを捨てたり虐待をしたりする人がいる事が僕は許せないのです。動物を飼うということは、その命に責任を持って最期まで飼うことです。そして、毎日の散歩やご飯を十分にあたえて、できる限り不自由なく過ごさせてあげることが大切だと思います。

それなのになぜ、動物を虐待したり、捨てる人がいたりするのが僕にはわかりません。捨てられたり虐待をされたりしても、動物は話すことができません。でも言葉を話せない分、「やめてほしい」「痛い」などの感情はあると思います。この間、テレビで虐待を受けて、人に対してトラウマを持った犬の映像が流れていました。その犬は、人が出したご飯も食べられず、遊ぶことすらできない様子でした。そんな、虐待された動物たちを見て、僕にできる事は、飼っているペットを大切にすることだと思います。命に責任を持つということはどういうことなのか一度考えてみませんか？悲しい思いをする動物が1匹でも多く救われることを僕は、願っています。